

(入浴に関する業務基準の一例)

<p>入浴</p> <p>入浴による効果と危険性</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>&lt;効果&gt;</p> <p>①血行が良くなる</p> <p>②爽快感</p> <p>③リラックスできる</p> <p>④清潔の保持</p> <p>⑤職員にとっては全身観察できる</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>&lt;危険&gt;</p> <p>①転倒</p> <p>②血圧変動</p> <p>③疲労</p> <p>④のぼせ</p> <p>⑤湯冷め</p> <p>⑥火傷</p> <p>⑦弱れる</p> <p>⑧脱水</p> </td> </tr> </table>		<p>&lt;効果&gt;</p> <p>①血行が良くなる</p> <p>②爽快感</p> <p>③リラックスできる</p> <p>④清潔の保持</p> <p>⑤職員にとっては全身観察できる</p>	<p>&lt;危険&gt;</p> <p>①転倒</p> <p>②血圧変動</p> <p>③疲労</p> <p>④のぼせ</p> <p>⑤湯冷め</p> <p>⑥火傷</p> <p>⑦弱れる</p> <p>⑧脱水</p>		
<p>&lt;効果&gt;</p> <p>①血行が良くなる</p> <p>②爽快感</p> <p>③リラックスできる</p> <p>④清潔の保持</p> <p>⑤職員にとっては全身観察できる</p>	<p>&lt;危険&gt;</p> <p>①転倒</p> <p>②血圧変動</p> <p>③疲労</p> <p>④のぼせ</p> <p>⑤湯冷め</p> <p>⑥火傷</p> <p>⑦弱れる</p> <p>⑧脱水</p>				
<p>入浴前準備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">確認すること 準備すること</th> <th>ポイント・留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>着替えを準備</p> <p>浴室の環境整備</p> <p>身体状況のチェック</p> </td> <td> <p>本人の好みをよく聴く</p> <p>季節感、色の組み合わせを考慮する</p> <p>暑さ、寒さに応じたもの ex マヒの程度によっては前開きタオル、アカスリ、バスタオル、石鹸、シャンプー、化粧水等の確認と準備</p> <p>その他ドライヤー、ブラシ、シャワーチェア、マット、温度計、水温計の用意</p> <p>室温、湯温の確認(浴室、脱衣所の温度差がないようにする) 24℃ 40℃位</p> <p>前日および夜間の身体状況の把握</p> <p>顔色、表情その他全身状態の変化の確認</p> <p>必要があれば検温、血圧測定し、医療との連携</p> <p>食事摂取の確認、服薬の確認(食事の直後や空腹時、服薬直後は避ける)</p> <p>排泄確認、入浴する前にトイレ誘導</p> <p>バルーンカテーテル、ストマ、褥瘡の処置の確認</p> <p>入浴後に塗布する軟膏があって依頼されていければ確認</p> </td> </tr> </tbody> </table>		確認すること 準備すること	ポイント・留意点	<p>着替えを準備</p> <p>浴室の環境整備</p> <p>身体状況のチェック</p>	<p>本人の好みをよく聴く</p> <p>季節感、色の組み合わせを考慮する</p> <p>暑さ、寒さに応じたもの ex マヒの程度によっては前開きタオル、アカスリ、バスタオル、石鹸、シャンプー、化粧水等の確認と準備</p> <p>その他ドライヤー、ブラシ、シャワーチェア、マット、温度計、水温計の用意</p> <p>室温、湯温の確認(浴室、脱衣所の温度差がないようにする) 24℃ 40℃位</p> <p>前日および夜間の身体状況の把握</p> <p>顔色、表情その他全身状態の変化の確認</p> <p>必要があれば検温、血圧測定し、医療との連携</p> <p>食事摂取の確認、服薬の確認(食事の直後や空腹時、服薬直後は避ける)</p> <p>排泄確認、入浴する前にトイレ誘導</p> <p>バルーンカテーテル、ストマ、褥瘡の処置の確認</p> <p>入浴後に塗布する軟膏があって依頼されていければ確認</p>
確認すること 準備すること	ポイント・留意点				
<p>着替えを準備</p> <p>浴室の環境整備</p> <p>身体状況のチェック</p>	<p>本人の好みをよく聴く</p> <p>季節感、色の組み合わせを考慮する</p> <p>暑さ、寒さに応じたもの ex マヒの程度によっては前開きタオル、アカスリ、バスタオル、石鹸、シャンプー、化粧水等の確認と準備</p> <p>その他ドライヤー、ブラシ、シャワーチェア、マット、温度計、水温計の用意</p> <p>室温、湯温の確認(浴室、脱衣所の温度差がないようにする) 24℃ 40℃位</p> <p>前日および夜間の身体状況の把握</p> <p>顔色、表情その他全身状態の変化の確認</p> <p>必要があれば検温、血圧測定し、医療との連携</p> <p>食事摂取の確認、服薬の確認(食事の直後や空腹時、服薬直後は避ける)</p> <p>排泄確認、入浴する前にトイレ誘導</p> <p>バルーンカテーテル、ストマ、褥瘡の処置の確認</p> <p>入浴後に塗布する軟膏があって依頼されていければ確認</p>				
<p>機械浴</p> <p>準備するもの ストレッチャー(敷くタオルケット、掛け物)、着替え、バスタオル、タオル、アカスリ、ガーゼなど洗うもの、石鹸、シャンプー、リンス、シャンプーハット、ブラシ、ドライヤー、化粧品</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">手順</th> <th>ポイント・留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>入浴することを理解してもらう</p> </td> <td> <p>入浴することを伝える</p> <p>本人の意思をきちんと聴く</p> </td> </tr> </tbody> </table>		手順	ポイント・留意点	<p>入浴することを理解してもらう</p>	<p>入浴することを伝える</p> <p>本人の意思をきちんと聴く</p>
手順	ポイント・留意点				
<p>入浴することを理解してもらう</p>	<p>入浴することを伝える</p> <p>本人の意思をきちんと聴く</p>				

手順	ポイント・留意点
脱衣所へ移動する	ストレッチャーや車いすから出ている手足をぶつけない ストレッチャーへの移動時、頭や足をぶつけないこと ストレッチャーでの移動は進行方向へ足が向くこと 掛け物をきちんとかける
衣類を脱ぐ	脱ぐことを説明する。いきなり脱がし始めたりしない。 自分でできるところはしていただく。 マヒがある場合は健側から脱ぐ介助 脱いだらすぐ体をタオルで覆う 脱いだ衣類はすぐランドリーボックスに入れる。床に置いたりすると気にする。ポケットの中や裏返しになっていないか確認
機械浴用ストレッチャーへ移動	ストレッチャーがぬれていればきちんと拭く。 ストレッチャーのストッパーがかかっているか確認 移動するとき「動きますよ」とまず声をかける 安全ベルトがぬれて冷たいようならタオルをあてるなどする
身体を洗う 湯をかける	声をかけて足（健側）や手（健側）にシャワーをかけ、湯加減を聴く このまま洗うか、湯につかるかを聴く（体調の許す人）
衣類を着る	おむつをつける、パンツをはくなど早く陰部を隠す マヒ側の手などに十分注意
移動用ストレッチャーに移る	ストッパーの確認
髪を乾かす	ドライヤーを近づけすぎたり、温度が高くないように注意。人によってはマッサージをする。
化粧品をつける	希望を聞くこと
居室ベッドに戻る	移動時、手足をぶつけないように注意 湯冷めしないように掛け物に注意
水分補給する	飲み物は数種類用意し、選んでもらうとよい。 全身状態の観察

調式の一部をチャート式にした記録様式の例

4	1 日(月)		2 日(火)		3 日(水)		4 日(木)		5 日(金)		日(土)		日(日)	
	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪
定期睡眠	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪
有・無	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪
食事	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
水分														
排泄	尿 6	回便 0	尿 7	回便 0	尿 7	回便 1	尿 8	回便 1	尿 7	回便 0	尿 回便	尿 回便	尿 回便	尿 回便
環境整備														
清潔	口腔ケア	朝 夜	口腔ケア	朝 夜	口腔ケア	朝 夜	口腔ケア	朝 夜	口腔ケア	朝 夜	口腔ケア	朝 夜	口腔ケア	朝 夜
一般浴・リフト浴	入浴	清拭・更衣	入浴	清拭・更衣	入浴	清拭・更衣	入浴	清拭・更衣	入浴	清拭・更衣	入浴	清拭	入浴	清拭
#1	#1	#2	#1	#2	#1	#2	#2	#3	#1	#2	#1	#2	#1	#2
#2	#2	#3	#2	#3	#2	#3	#2	#3	#2	#3	#2	#3	#2	#3
#3	#3	#4	#3	#4	#3	#4	#3	#4	#3	#4	#3	#4	#3	#4
#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
*その他														
身体症状														
合併症等														
如置														
休息														
体位変換														
バイタル	体温 62	64	62	64	60	64	72	68	64	58				
脈拍	70	69	72	69	72	80	74	70	72					
血圧		102/64												
面会・家族連絡	長男夫婦													
家族希望	衣服3回洗浄される													
サイン														
評価	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8	#9	#10	#11	#12	#13	#14
継続	継続	変更	継続	変更	継続	変更	継続	変更	継続	変更	継続	変更	継続	変更
追加	追加	追加	追加	追加	追加	追加	追加	追加	追加	追加	追加	追加	追加	追加
終了	終了	終了	終了	終了	終了	終了	終了	終了	終了	終了	終了	終了	終了	終了

患者氏名

男・女

86歳

評価欄は1週間の状態等をみて継続の必要性、変更の必要性などを評価し、該当部分を○で囲む。

別様の褥瘡サービスクラッシュにより記載された、生活全般の解決すべき課題(ニーズ)について記載。それぞれの課題(ニーズ)に合わせ記載する。

前週等に問題が無かったときは( )の前に○を記入し、問題があった場合には×をつけ( )内に状況を記載する。

行った場合に○で囲む。

睡眠状態を○で囲む。

1日のトータル量を記載。

食事の量を記載。

【移乗に関する事故予防】

車いす使用時の基本的な注意点

⇒利用者の手と足がどこにあるのか常に注意する

○マヒ側の足はフットプレートから落ちやすい（足が落ちたまま車いすを操作すると前輪で足を轆くおそれがある）

※車いすを動かし始めるとき、走行中必ず足がフットプレートに乗っていることを確認する。

○肘がアームレストから出ている利用者が多い。そのことを考慮しないと肘を壁や柱の角にぶつける危険性あり

※介助者が片手で利用者の肘をカバーする

※「手は膝の上に乗せましょう」と声をかけ、手を移動する

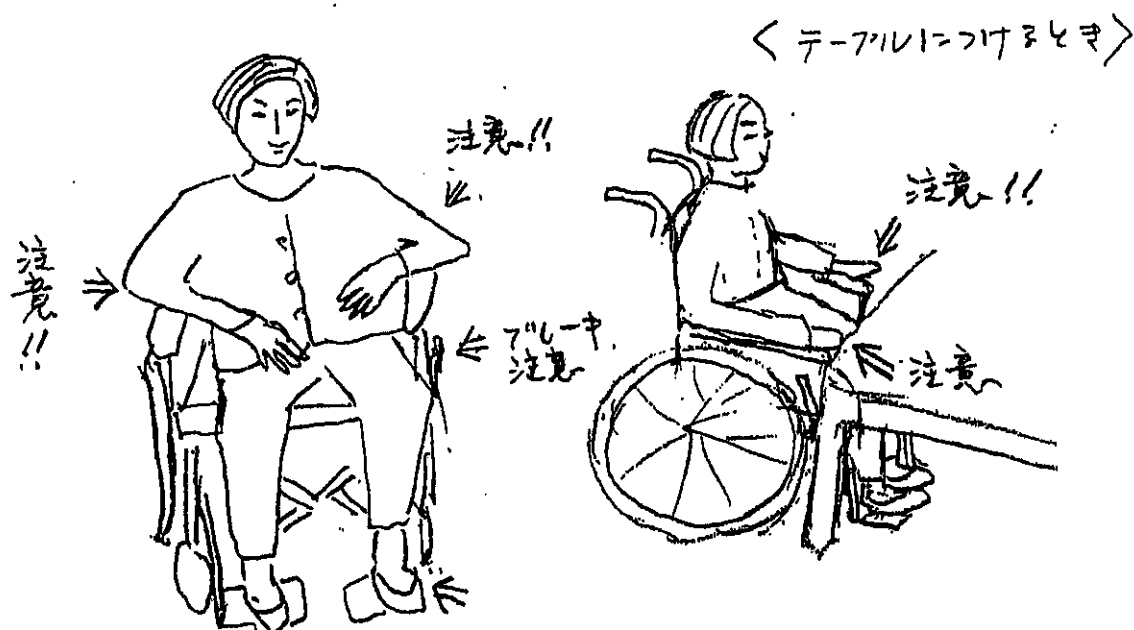
○両手をアームレストに乗せている利用者が多い。テーブルにつけようとするとき、そのことを考慮しないと手をアームレストとテーブルの間に挟んでしまい、怪我をすることあり

※「手は膝の上に乗せましょう」と声をかけ、手を移動する

※手をテーブルの上に乗せる、ハンザイしてくださいなどと声をかける

介助者は、車いすのグリップから手を離すとき、必ずブレーキをかける。

（何かのはずみで車いすか動く、痴呆性の利用者に押されるなどして動くことあり）



## ○福祉サービスにおける危機管理に関する検討会メンバー

(五十音順 ◎：座長)

内 田 千恵子 (東京都介護福祉士会副会長)

門 廣 繁 幸 (全国社会福祉協議会企画部長)

児 玉 安 司 (弁護士、医師、東海大学医学部教授)

財 前 民 男 (社会福祉法人光明会理事長)

高 岡 國 士 (社会福祉法人成光苑理事長)

田 中 とも江 (抑制廃止研究所代表)

◎橋 本 泰 子 (大正大学人間学部人間福祉学科教授)